

らいあんぐる

～一人ひとりが幸せを実感できるまちへ～

【編集】=「らいあんぐる」編集員

【問合先】=本庁企画政策部 コミュニティ課
男女共同参画グループ
TEL(23)5111(内線4612)

子どもたちの幸せを守るために、家庭だけではなく、社会全体での取り組みが求められています。では、私たちはどうか。考へることは、行動への第一歩。次の会話を通して、一緒に考へてみましょう。

「暴力」は、深刻な人権侵害の一つ。対象者に恐怖と不安を与え、その活動を束縛して自信を失わせ、従属的な状況に追い込むもので、誰ひとりとして許されるものではありません。

前回はDVを取り上げましたが、今回は、児童虐待に焦点を当てます。

「らいあんぐる」は、私たち公募による編集委員が、男女共同参画の視点から、さまざまな問題を取り上げ、情報を発信しています。

地域のつながりに感謝した日

私の子育て日記から

私の子どもが幼稚園の頃のことだった。休日のお風呂、「もうすぐご飯だからおもちゃを片付けなさい」と子どもに声を掛けると「後で」との返事。「いや、今すぐ」と私。「いやだ」と子ども。カーッとなつた私は、「言うこと聞かない子は出て行きなさい!」と声を荒らげてしまった。

子どもはそそくさと玄関を飛び出した。てっきり近所に住むおばあちゃん宅に行くものと高をくくっていた私は、それとは反対方向へ歩いて行く子どもの姿に、慌てて後を追いかけたが、時すでに遅し。途方に暮れながら、込み上げる不安な気持ちを必死でかき消した。程なくして、一本の電話。近所のおじちゃんだった。子どもが一人で歩いていたから、声を掛けたら「家出してきた」とのこと。今、うちでご飯を食べさせているから、もうしばらくしたら帰宅させるとの内容だった。

ほっと一安心。自分の大人げない言動を反省しながら、近所付き合いの大切さを痛感した。これが、「地域で子育てを」といわれるゆえんなのかもしれない。心から感謝した。

今、子育てに奮闘している世代には、地域との関わりをわざわざしく思う人が少なくないかもしれないが、地域に子どもを見守ってくれる目がたくさんあることは、とても大切で幸せなことだ。

子育てが終わった方も、他人事と思うのではなく、次の世代のために、少しだけ力を貸していただけたら…とにかく頼っている。

(文責:編集員K)

私たちにできることは何?

ちほ: 未来ある子どもの尊い命が奪われる事件が報道されるたびに、切ない気持ちになるね。
ゆうこ: 若い世代の低所得や**子どもの貧困**(*1)というキーワードも気になるね。
ちほ: 行政によるさまざまな対応策も出されているけど、子育てへの不安や孤独感を抱いている親は依然多いらしいよ。
ゆうこ: 子育て中は、私たちもいろいろなことがあって大変だったわ。それだけに、地域の一員として何かの力になりたいって気持ちはあるんだけど…。

ちほ: 先日、市の**スクールソーシャルワーカー**(*2)から、「地域のつながりに感謝した日」のボランティアに登録してみてはどう?
ゆうこ: そうね。まずは、地域の行事に参加して、子どもたちと顔見

ちほ: えーっ、どうしたこと?
ゆうこ: 男女共同参画基礎講座の講師の受け売りなんだけど、「相手の人権を尊重できる人」のこと。地域にそんな人がどんどん増えていいらしいね。それぞれの家庭の問題はさまざまだから、すぐには解決できないかもしれないけど、そつと寄り添ってくれる人の存在は、きっと力になると思うよ。

用語解説

*1 子どもの貧困

厚生労働省調査(2012年)によると、6人に1人の子どもが貧困(平均的な所得の半分を下回る世帯で暮らす18歳未満の子ども)という状況にあり、貧困の連鎖が懸念されている。



*2 スクールソーシャルワーカー

いじめや不登校など、児童生徒の問題行動などに対応するために配置される社会福祉などの専門家(本市は2人配置)

***3 いかのおすし**
子どもを犯罪から守る防犯標語。「いかない。のらない。おおきな声でさけぶ。すぐにげる。しらせる。」の意

***4 させんたい学校応援団**
地域の人々が学校支援ボランティアとなり、学校の要望に応じた支援活動を行うことで、地域全体で子どもを守り育てようというもの